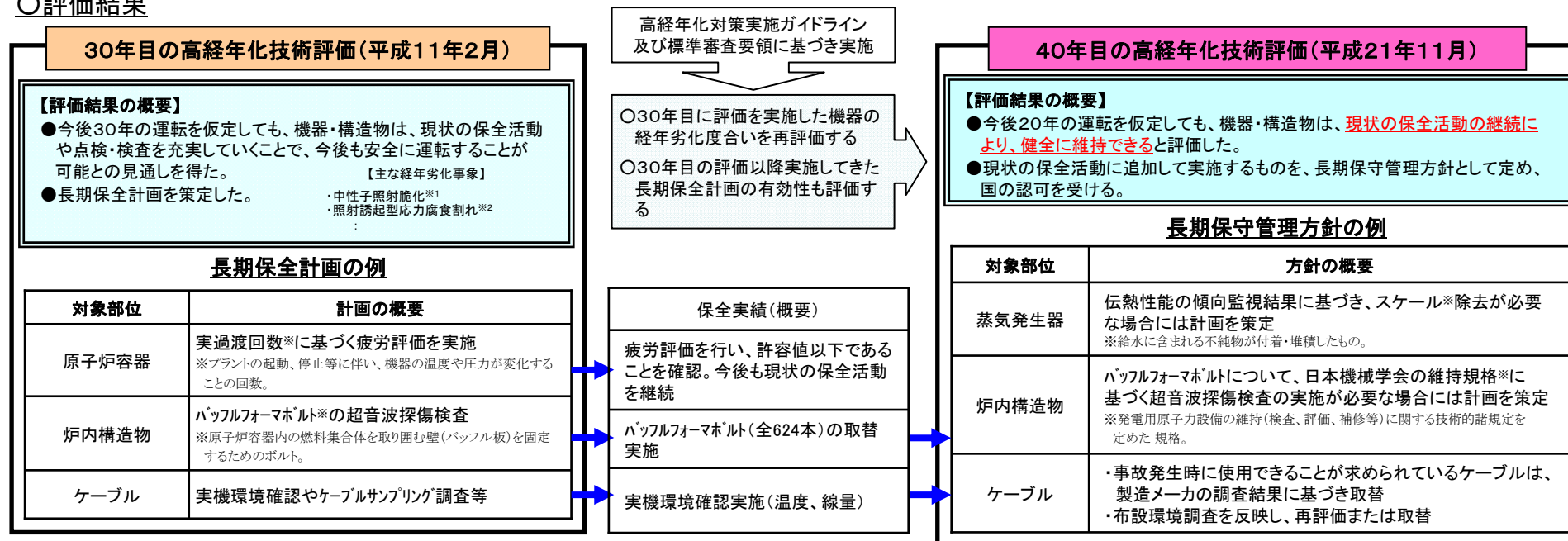


美浜発電所1号機 高経年化技術評価の概要について

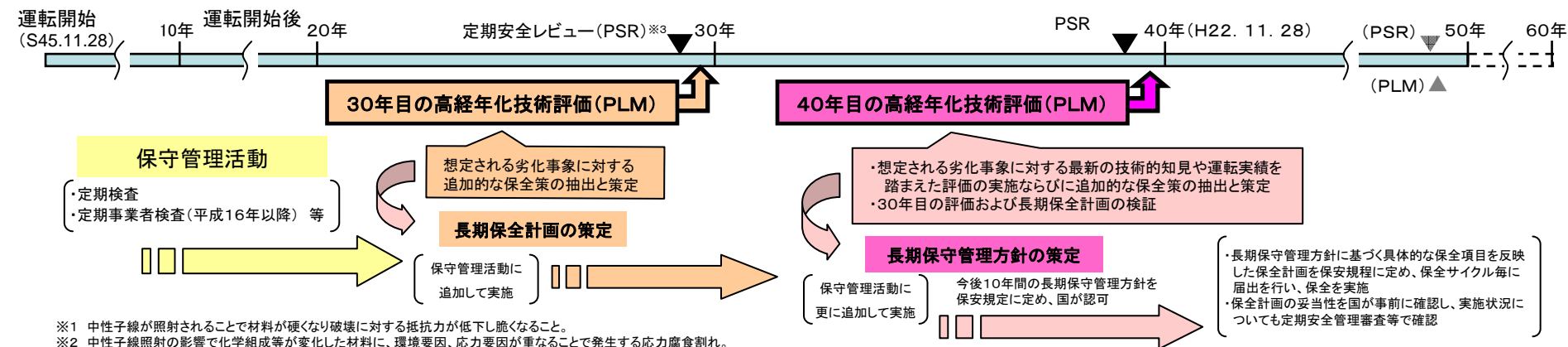
平成22年5月14日

当社は美浜発電所1号機について、「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」等に基づき、40年目の高経年化技術評価の実施および同評価に基づく長期保守管理方針を策定しました。今回の高経年化技術評価では、30年目の高経年化技術評価以降の運転経験や技術的知見等を取り入れ、運転開始から60年の運転期間を仮定して評価を行いました。この結果、**現在行っている保全活動に加えて一部の機器に追加保全策を講じることで、40年目以降の運転においても、プラントを健全に維持できることを確認**するとともに、同評価に基づく追加保全策を長期保守管理方針として取りまとめ、昨年11月に国に提出しました。現在、40年目の高経年化技術評価と同評価に基づく10年間の長期保守管理方針について、国による審査を受けている段階です。

○評価結果



○高経年化技術評価と長期保守管理方針の流れ



※1 中性子線が照射されることで材料が硬くなり破壊に対する抵抗力が低下し脆くなること。
 ※2 中性子線照射の影響で化学組成等が変化した材料に、環境要因、応力要因が重なることで発生する応力腐食割れ。
 ※3 保安規定に定められた、原子力発電所の保守、運転、燃料、放射線管理等の保安活動を10年に1度評価する活動。